

No	ゾーン	作業名称	作業背景・目的	作業内容	作業対象	備考・注意事項	作業時期	作業者(仮)
1	全体	樹木台帳の作成	樹木管理のために作成することで、管理効率が向上する。	樹木台帳を作成し、調査の都度更新を行う	地区全体		月に1回程度の更新	市
2	全体	落枝の点検と除伐	枯れ枝等の落枝リスクがある。	定期的な点検を実施。	地区全体	剪定業者や庭師などの常駐サービスの活用を検討	月に1回程度	保存会/市
3	全体	害虫対策	スズメバチやダニ等が発生しており、一般開放の際に危険になっている。また、夏季は蚊の発生も多く、来場者の快適性に支障をきたしている。	スズメバチは5月頃に活動を開始する女王バチを減らす対策すること、8月頃はハチの群れへの対策をすることが必要。	地区全体	樹木用の散布薬材の使用を検討する。	適宜（スズメバチは5月と8月）	保存会/市
4	野草園	野草園の維持・管理	市民からの関心が高く、当地区の中心的コンテンツであるため、環境を維持する必要がある。	野草園の維持・管理	野草園全体		日常的	保存会
5	草地	除草	生物多様性を考慮しながら除草及び除伐を行う	繁殖力が強い種や、害虫発生の原因となる種（アズマネザサ、ヌスビトハギ、ヤブカラシ、セイタカアワダチソウ、イノコヅチ）等は駆除を行う	草地ゾーン全体		春季	適宜

常緑広葉樹：シラカシ/スタジイ/ヤブツバキ 等 落葉広葉樹：クヌギ/ヤマザクラ 等			樹木の適切な剪定手法については、樹種・樹木の生育状況・当地区の環境特性などが絡むため 剪定する樹木が決定した後、各樹木に対して専門家から適切な剪定手法について意見を聴取し、 施設の安全性を確保する視点、財政的負担への配慮、剪定後の樹木の生育等をそれぞれ考慮し、 最も適した剪定手法で作業を行う。							凡例 ●：実施予定 ○：必要に応じて実施を検討											
No	主な対象 ゾーン	作業名 称	作業背景・目的	作業内容	作業樹 種	作業対象選定基準	対象樹木 選定時期	備考・注意事項	作業 時期	作業年度										作業サイクルの 設定背景	作業者 (仮)
										R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16		
6	高木林	高木の樹 高調整	必要以上に樹高が高くなっているシ ラカシが見られる。周囲への危険性 や、高木林ゾーンの中低木及び下草 等への日差し量に影響が出る場合が ある。 また、管理面においても樹高が高い と維持管理が困難になる。	現在の樹高を基 準として、高く なりすぎた樹木 に対して樹高調 整を行う	シラカシ/ ケヤキ/ス ギ/ヤマザ クラ等	現在の樹高を基準とし て、以下の①～③該当 する樹木のうち専門家 からの意見を考慮し、 対象の選定を行う。 ①落枝等の目視調査が 困難で樹木の状態を正 確に把握が困難 ②下草及び低木など他 の植生に対する日差し 量に影響を及ぼしてい る ③剪定作業が困難なほ ど樹高が高くなりつつ ある	作業実施年 度の前年度 ●月		○○ 月	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○		市
7	高木林	実生の常 緑樹の除 伐と密度 調整	実生の常緑樹が増加している。自然 の遷移を止めるために処置が必要で ある 常緑樹が増えることで、屋敷林全体 の木漏れ日量を維持する。 樹木密度が高く、日差しを確保する ことで屋敷林の生物多様性を保全す ることが望まれる。 また、特に高木林ゾーン北西側の密 度が高く、樹木にとって小さい樹幹 で上に伸びる選択枝がなく、高木の 密集状態が生まれている。 樹木密度が高く枯れ木や落枝の発見 が困難になっており危険。	・古木化等によ り伐採する際に 補植しない ・除伐/樹高調整	シラカシ/ ユズリハ/ ヤブニッ ケイ/ウス ギモクセ イ/ヤブツ バキ/クス ノキ/ミズ キ	除伐対象： 新たに生えてきた実生 の常緑樹（1.5mの高さ における幹の周囲が 1.5mまでのもの） 剪定対象： 樹木が密集しており、 日差しの量や目視での 落枝踏査及び、敷地内 の植生に悪影響を及ぼ している樹木	作業実施年 度の前年度 ●月	伐採 する 樹木 に準 ずる		●	●	●	●	○	○	○	○	○		樹木の密度調整 は、目安を設定が 難しい為、具体的 な作業時期や内容 については、他の 管理状況に合わせて 、樹木医や保存 会との協議の上で 適宜判断が必要	市/保存 会
8	敷地外 縁部	敷地外に 越境して いる樹木 の剪定	日差しを確保することで屋敷林の生 物多様性を保全する。 敷地外への落枝の危険があり、安全 管理のための対応が必要。	越境している枝 を徐々に剪定 し、最終的にす べての枝が敷地 内に収まるよう 樹形を整える。		枝が敷地外に越境して いる外縁部の樹木。	作業実施年 度の前年度 ●月		剪定 する 樹木 に準 ずる	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	樹木へのダメージ を考慮しながら3～ 4年程度かけて選 定を行う。	市

9	高木林	危険木の 除伐及び 剪定	枯れ木や枯れ枝は開放にあたって落 枝の危険がある。	倒木や落枝の危 険がある樹木に ついて除伐及 び、剪定を行 う。		日常管理における点検 等により発見された枯 れ木・古木や枯れ枝。	作業実施年 度の前年度 ●月		1月 ～3 月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	葉が茂りすぎてお らず枯れ枝を判断 しやすい為、芽が 出る時期に実施。	市
10	小広 場・鑑 賞樹	ハリエン ジュ（ニ セアカシ ア）の除 伐	繁殖力が強い外来種であるため、除 伐が必要。	除伐	ハリエン ジュ（ニ セアカシ ア）	生育しているものは全 て除伐を行う。		根から発芽する為、 根ごと処理する必要 がある。	5月 ～6 月			○	○	○	○	○	○	○	○	○	一般開放に影響す る作業ではない 為、高木林ゾーン 等の整備が進んで からの実施で良い か。一度除伐した 後は定期的に発芽 するたびに除伐が 必要。	市

[illegible]

No	ゾーン	作業名称	作業背景・目的	作業内容	作業樹種	作業時期	作業年度										作業サイクルの設定 背景	作業者(仮)
							R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16		
15	高木林	樹木のナラ枯れ対策	ナラ枯れ等の伝染病対策が必要。	シラカシ等の樹木にラップを巻くなどの対策を行う。	シラカシ等	5月～6月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	市	市
16	竹林	タケノコの除伐	繁殖力の強いモウソウチクが分布しており、さらなる拡大と高密度化を防ぐためタケノコの段階で除伐を行う。また、ゾーン外に生えてきたタケノコについても除伐を行う。	タケノコの除伐	モウソウチク	4月～6月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		保存会
17	竹林	モウソウチクの除伐（密度管理）	除伐等により密度管理を行う。これによって竹や下草の適切な成育環境を整える。	モウソウチクの除伐	モウソウチク	1月～2月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		保存会/市
18	竹林	拡大防止トレンチの設置	現状では、鉄柵で拡大を防止しているように見受けられるが、竹林が無秩序に拡大する可能性がある。	トレンチの整備	竹林外縁部	—			△								設置の検討が必要。 また、現時点で大きな問題は無いので、高木林ゾーンの整備後で実施が良いか。	市
19	竹林	タケノコ除伐の後処理	タケノコの伐採後の切り株の水溜まり対策（蚊の発生源）を行い、屋敷林内の快適な環境を整える。	切株を土で埋める	竹林全体	4月～6月	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		保存会
20	草地	防風機能を持ったかつての屋敷林の再現	高木林ゾーンのシラカシは現在では樹高が高く、かつての屋敷林の姿とは異なる	草地ゾーンにかつての防風林としての屋敷林の姿を再現し、教育等に活用する。	草地ゾーン南東部のシラカシ	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ガイドラインへの記載自体を検討する必要あり。	保存会